

氏名 山 本 忠 郷

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位 授与 番号 甲 第 11 号

学位 授与 の 日付 昭和34年 3 月31日

学位 授与 の 要件 医学研究科生理系解剖学専攻
(学位規則第 5 条 1 項該当)

学 位 論 文 題 目 **Beobachtung Eindringens Von lipoidloslichem Schwach
basischem Viktoriablan in die Schlemhaut der
Mund hohle Speiserohre und Bindehaut ant und in
die Cornea der Maus**

(類脂溶性の弱塩基性染料ビクトリア青の二十日鼠の口腔，食道，結
膜の粘膜と角膜への進入の観察)

論 文 審 査 委 員 教授 関 正 次 教授 大 内 弘 教授 渡 辺 義 男

学 位 論 文 内 容 要 旨

染料はその電氣的極性に従い強極性染料，中等極性染料，弱と無極性染料に大別され，ここでは主に強極性染料と中等極性染料が種々の動物組織に進入する難易と状況が観察された。

類脂溶性で弱塩基性のビクトリア青は二十日鼠に於て，角膜<結膜<食道<口腔底<舌下面<舌背<頬＝歯肉＝硬口蓋の順によく進入する。家兎の食道粘膜へは強極性の染料でも中等極性染料でも，塩基性のものは酸性のものに較べて進入し易い。食道上皮が粘液に被われれば，どの染料も進入する事が著しくむつかしくなる。長期のラノリン食により変化した家兎の大動脈内膜へは強極性染料も中等極性染料も著しく入りやすくなり，ビクトリア青が甚だよく入り，強極性ではあるが多少類脂質に溶ける中性赤がこれに次ぐ。

二十日鼠の口腔粘膜をやや過度に温めれば，ビクトリア青や中性赤が比較的易く被蓋上皮を通過して上皮下の結合組織に達する。また頬粘膜に開口する唾液腺の導管壁にもよく進入する様になる。この様に頬粘膜が加熱されると，薬物，毒物，ビールス等もそこに進入し易くなることが考えられる。

論文審査の結果の要旨

山本忠郷提出の「染料の極性と動物組織への進入性との関係」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

今までに染料をその電氣的極性に従い強極性染料、中等極性染料弱と無極性染料に大別して研究した例は少い、そこでこの研究では主に強極性染料と中等極性染料が種々の動物組織に進入する難易と状況が観察された。

類脂溶性で弱塩基性のピクトリア青は二十日鼠に於て、角膜<結膜<食道<口腔底<舌下面<舌背<頬―歯肉―硬口蓋の順によく進入する。家兎の食道粘膜へは強極性の染料でも中等極性染料でも、塩基性のものは酸性のものに較べて進入し易い。食道上皮が粘液に被われればどの染料も進入する事が著しくむつかしくなる。長期のラノリン食により変化した家兎の大動脈内膜へは強極性染料も中等極性染料も著しく入りやすくなり、ピクトリア青が甚だよく入り、強極性ではあるが多少類脂質に溶ける中性赤がこれに次ぐ。

二十日鼠の口腔粘膜をやや過度に温めれば、ピクトリア青や中性赤が比較的易く被蓋上皮を通過して上皮下の結合組織に達する。また頬粘膜に開口する唾液腺の導管壁にもよく進入するようになる。このように頬粘膜が加熱されると、薬物、毒物、ビールス等もそこに進入し易くなることが考えられた。

以上のように本研究は学術上新知見を加えたもので医学博士の学位を授与するに値するものと認める。